



【森】振り返りますが、第3次総合計画に基づいて、どのようなまちづくりに取り組んでこられたか？

第5次総合計画
策定について

【理事】本市の第3次総合計画は、平成9年から平成17年までを計画期間とし、将来都市像である「豊かさを共有する人間都市・和泉」の実現に向けて取り組みました。当計画では、トリヴェール和泉の開発等により、まちの様子が大きく移り変わるなか、「『和泉新時代』にふさわしい都市基盤の整備」や「アイデンティティの形成と『まちの顔』づくり」等をまちづくりの課題とし、市域を北西部地域、北部地域、中部地域、南部地域の4地域に区分のうえ、地域ごとの拠点整備を行う「地域別整備構想」を盛り込むなど、「都市基盤」や「都市環境」の整備等を推進しました。

【森】現行の第4次総合計画においては、これまでどのようにまちづくりを進めてこられたか？

【理事】本市の第4次総合計画は、平成19年から平成27年までを計画期間とし、将来像である「人がきらめき 共に育む 元気なまち・和泉」の実現に向けて、これまで取り組んでまいりました。

当計画では、行財政の厳しさが増し、地方分権が進む中において、第3次総合計画に基づいて整備した都市基盤や地域拠点の有効活用を常に意識しつつ、「公民

の役割分担」、「行政の使命」、「行政経営の基本方針」を計画に盛り込み、行政経営の視点によるまちづくりを推進してきました。特に、第3次総合計画を踏襲した4つの地域区分ごとの地域特徴を生かした、公民協働によるまちづくりを推進するとともに、初めての試みとして各施策に成果指標を設け、その達成状況を可視化することにより、施策の質の向上に向けて取り組んでまいりました。

【森】わが国において、少子高齢化・人口減少社会が本格化するなか、第5次総合計画の計画期間は、本市のまちづくりにおける転換期にあたると思う。第3次総合計画を踏襲し、また新たな試みとして成果指標を出すことにより第4次総合計画を進められた。今年7月4日オープンの北部リージョンセンターにて一旦ハードの終結と考える。第5次総合計画は第4次総合計画の効率化のためのソフトの充実を取り入れるべきである。各4地域の現状を把握して、実りのある地域の活性化に取り組む。防災計画なども各地域での充実。4地域の創生とでも名付けたいくらいである。但し新たな人口増などの街づくり計画は進行する。都市環境委員会で多摩ニュータウンに視察をおこなった。50年先の人口維持を20年の歳月をかけ達成していた。和泉市の上位総計は10年、下位計画は5年、躍進プラン・マスタープランなどいろいろな計画が存在するが、50年先の人口維持のためなどの計画を平行に検討すべきである。総計項目の終結、継続、新たな取り組みを明白にし、今後訪れるであろう時代に対応する必要がある。

連絡先 〒594-1117 和泉市鍛冶屋町344-2
TEL 0725-55-3799 FAX 0725-55-4288
Mail : info@morihisayuki.com
稲穂通信 発行責任者 森ひさゆき
森 ひさゆき Q 検索

小学生の時の色覚検査で、色弱だと言われた。たくさんの色の点々で描かれた文字や数字を答える検査を、覚えていた方もあろう。その大半を読めなかった。とはいえ、信号はちゃんと見えるし、仕事でハンデも感じない。普段は忘れていたが、例えばテレビをつけた際に、ふと自分が色弱だったことを思い出す。リモコンのスイッチを押すと、本体の電源ランプが赤から緑になる。その色の違いがよくわからない。画面がすぐ反応しないところけ損なったりと勘違いしてもう一度ボタンを押し、消してしまう。こうしたことが、少々煩わしい。青色のランプなら、色弱でも見分けやすい。青色



論説副委員長
林田晃雄

「赤と緑の電源ランプ」

H27年5月16日の読売新聞 夕刊

LEDがあるのに、なぜ赤と緑のままなのか。色弱者の立場から提言などを行うNPO法人「カラーユニバーサルデザイン機構」の伊賀公一さんに聞いてみた。ある家電メーカーは伊賀さんに、「苦情がないから」と説明したという。クレームの有無を改良の判断材料にするのは、業界として普通の対応なのだろう。ただ、色弱者の1人として言わせてもらえば、不良品でもないのに、苦情電話はかけにくい。男性の20人に1人は色弱というから、「実は困っている」という人は、かなり多いのではないか。テレビに限らず、様々な家電製品で赤と緑のランプが使われている。見分けやすい色遣いに変えて潜在需要を掘り起こす。そんなメーカーが増えたらいいと願う。

和泉市においても先進的役割としてユニバーサルデザインに近づけた街づくりに取り組んでいただけますようお願いいたします。



季節の風情
よーいドンゲロゲロゲロと鳴き競う

色覚に関する指導について

【森】 色覚異常とはどのようなものですか？

【理事】 色の見え方は個人によって違いがあります。医学的には、色覚の検査をした際に、その結果が大多数とは明らかに異なっている場合、「色覚異常」と診断されます。色覚異常といっても、色がわからないのではなく、程度もそれぞれ異なりますが、日常生活にはほとんど支障のない程度であることが大半です。また、「色覚異常」という学術用語ですが、学校や社会においては「色覚特性」という言い方を使う場合も多くなってまいりました。この答弁においては「色覚特性」という表現を使わせていただきます。

【森】 今後は「色覚特性」という言葉を使いたいとおもいます。日常生活でほとんど支障のない場合が大半という認識が気になりますが。たとえばこの封筒が何色に見えますか。そこの緑の封筒をとってくださいとなるんです。実際は茶封筒なんです。数字の5がつかなくて6と認識してしまいます。現在学校での色覚検査、いわゆる石原式検査はどのようになっていますか？

【理事】 以前は小学校入学前の就学時検診や定期健診において、色覚検査を行っておりました。しかし、色覚異常についての理解が進み、色覚検査で異常と判別される児童生徒でも、大半は学校生活に支障はないという認識のもとに、平成15年4月から学校における定期健康診断の必須項目から色覚検査が削除されることになりました。現在では、保護者からの申し出をもとに児童生徒の状況を把握しております。

【森】 和泉市にはどのくらいの色覚に特性のある児童生徒がいますか？

【理事】 現在、報告を受けております数字として、小学校（男子6名、女子0名）、中学校（男子2名、女子0名）となっております。当該の児童生徒に対しては、学校での教育活動等において一定の配慮が必要となることもございます。

【森】 アンケートを実施していただきありがとうございました。実際はアンケートの結果以上にもっと多いとおもいますが。そこで教職員の理解や学習、進路についての指導はどのような状況ですか？

【理事】 教育活動全般において、色の見分けが困難な児童生徒がいるかもしれないという前提で、教員は、色覚特性について正しい知識をもって児童生徒に接するとともに、学習環境を整えるように努め、必要と考えられる場合は個別相談するなど、適切な対応を心掛けております。また、進路指導においては、色覚特性を一つの個性と考え、いたずらに職業の選択を狭めることのないように指導し、色覚特性がハンデになりうる職種を希望する場合は、正確な資料に基づいた情報を提供するように努めております。

【森】 文科省の発行する色覚に関する指導資料の「色覚に関する誤解の解消」項目に「色覚異常は色がまったくわからない」、「運転免許は取得できない」、「工学部や医学部には進めない」などとおもいこんでいる児童生徒もいます。これは全て誤解です。という文章がありますが、しかし理科系、とくに化学系では大きな問題であると思います。理科系に進学しようと勉強をしていたが、実際には自分の色覚特性により進路を変更せざる負えないという場合があります。検査しなくなったことで進路が閉ざされることが懸念されます。現行の文科省の方針や今後の動向、または和泉市においてどのように取り組みをすすめますか？

【理事】 平成25年8月15日に開かれた文部科学省の「今後の健康診断の在り方等に関する検討会」では、10年ほど前から実施されなくなった未就学児・児童・生徒などを対象にした学校での「色覚検査」を健康診断の必須項目に復活させるような意見もありました。その理由としては、「日常・学校生活を問わず、色覚異常に気づかず、失敗した事例が数多く、特に、進学・就職の際に進路変更をせざるを得ない状況を招くことがあるため」とあり、「今後、学校での『色覚検査』は、小学校低学年（以前は4年生）で実施すること、また、進路指導の一環として、中学校1～2年で再度実施することが必要だ」としています。さらに、昨年（平成26年）6月5日付け「学校における色覚検査について」の中では、「特に、今後、児童生徒が自身の色覚の特性を知らないまま不利益を受けることのないよう、保健調査に色覚の項目を新たに追加するなど、積極的に保護者等への周知を図る必要があること」とし、引き続き学校における色覚検査等が適切に実施されるようでありました。これらの国や府の動向を見据えつつ、和泉市教委といたしましても、児童生徒一人ひとりが自分らしく輝く未来を実現できるように、保護者等への周知を図るとともに、さらに各校においてはカラーバリアフリーの研修等を行い、指導の充実をめざしてまいります。

【森】 それでは、一般ではどうか。赤と緑が判別できない。時刻表の表示の色の違いがわからない。テレビでの花粉飛散の表示状況がわからないと聞いたことがあります。防災マップもそうです。5月16日の読売新聞夕刊に論説副委員長の林田晃雄氏の「赤と緑の電源ランプ」という記事が掲載されていました。（以下掲載）